

都内学卒者の初任賃金は前年に比べわずかに上昇

平成18年3月新規学卒者の求人初任給調査より

- 東京労働局 -

東京労働局はこのほど、東京都内のハローワークで受理した平成18年3月卒業予定者（大学、短大、専修、高校、中学）に対する求人について調査を行い、その結果を取りまとめた。これは、東京都内のハローワークで調査期間中（大学・短大・専修 平成17年4月1日～9月9日、高校・中学 平成17年6月20日～8月31日）に受理した学卒求人票（求人申込件数16,682件、求人数153,533人）を調査したもので、学卒求人票に記載された「定期的に支払われる賃金」及び「求人数」を学歴別、職業別、産業別、事業所規模別の調査となっている。それによると、学歴別にみた初任賃金は高校を除き、全体的にわずかに上昇がみられた。産業別にみた初任賃金は大学、短大、専修で「金融・保険業」が高く、高校は「建設業」が高くなっている。調査結果の概要は次のとおり。

調査結果

学卒者対象求人の平均賃金額は以下のとおりとなった。

なお、中学卒対象求人については、求人申込件数自体が31件と少ないため、調査の結果については割愛した。

1．学歴別にみた初任賃金（中位数）

前年と比較すると全体的にわずかな上昇がみられた。（大学0.7%、短大1.3%、専修1.7%上昇）ただし、高校について

は同水準であった。

2．事業所規模別にみた初任賃金（中位数）

1,000人以上の大企業の初任給賃金（中位数）を基準（100）としたときの事業所規模間格差をみると、全ての学歴で他の規模が大企業を上回り、中規模（100～499人）の事業所で高い傾向がみられた。

学業別・産業別初任給賃金（中位数）

	最も高い産業	初任給賃金額	最も低い産業	初任給賃金額
大 学	金融・保険業	215,000	運 輸 業	196,000
短 大	金融・保険業	207,300	教育、学習支援業	175,500
専 修	金融・保険業	210,000	医療、福祉	175,000
高 校	建設業	170,000	金融・保険業 医療、福祉 サービス業 (他に分類されないもの)	160,000

3. 産業別にみた初任賃金（中位数）

産業別に最も高い初任給賃金（中位数）をみると、大学、短大、専修では「金融・保険業」が高く（それぞれ215,000円、207,300円、210,000円）、高校では「建設業」（170,000円）となった。

最も低い産業をみると、大学では「運輸業」（196,000円）、短大では「教育、学習支援業」（175,500円）、専修では「医療、福祉」（それぞれ175,000円）、高校では「金融・保険業」、「医療福祉」、「サービス業」が同額（160,000円）となった。

4. 初任賃金の分布

賃金階級別での求人分布状況を見ると、大きな割合を占めているのは、大学では190,000～209,999円で44.9%、短大、専修では170,000～189,999円でそれぞれ44.6%、45.2%、高校では150,000～

169,999円で52.6%となった。

5. 職業別にみた初任賃金（中位数）

求人の大多数を占める3職種（専門・技術、事務、販売の3職種。高校はこれに技能を加えた計4職種。）別に初任給賃金（中位数）をみると、大学、短大、専修では「販売」が最も高く、それぞれ205,000円（前年比2.0%上昇）、186,500円（同3.6%上昇）では185,000円（同2.8%上昇）、高校では専門技術が最も高く、169,400円（前年比1.6%上昇）となった。

一方、最も低い職業をみると、全学歴において事務職が低く、大学では198,500円（前年比0.4%上昇）、短大では175,000円（同2.4%減少）、専修では175,000円（同2.8%減少）、高校では160,000円（前年同率）となった。